

輕技Web Ver7.0.2 【制限事項】

タイトル		制限事項	
動作環境 関連			
動作環境について		クライアントブラウザ、Webサーバ、DBサーバによって動作しない場合があります。 動作確認済みの環境については軽技Webサイトを参照下さい。	
		クライアント、Webサーバ、DBサーバにて動作保証しているOSは日本語OSのみとなります。	
		複数ブラウザ、タブでの利用、またブラウザバックは軽技Webが正常に動作しなくなる可能性があります。	
データベースへの負荷		軽技が作成した検索条件によってデータベースサーバに高い負荷をかけ続ける場合があります。 例) 100万件のデータの並び替え 対応方法としては下記の通りです。 データベース側 ・予防 接続時間や処理時間、リソースの制限 ・発生時 セッションの切断 軽技Web側 ・予防 制限したビューの作成 軽技ユーザデータベースで負荷のかかるテーブルを制限 件数カウントをしない テーブル結合 最大問合せ件数を使用しない ・発生時 IISの再起動	
利用不可データ型について		Binary型のデータを参照することはできません。	
ブラウザ 関連			
Chromeについて		Chromeではピボット転送が利用できません。	
		Chromeでは風神レポートが利用できません。	
		Chromeでは実行結果枠固定が利用できません。	
		ChromeではURL公開設定画面の「クリップボードに貼り付け」、「お気に入りに追加」ボタンが利用できません。	
Internet Explorer 11(x64)について		IE11(x64)では風神レポートをサポートしていません。	
Oracleデータベース 関連			
データベース名、所有者名、オブジェクト名、について		[推奨文字列] アルファベット A～Z、アンダーバー _、数字 0～9、特殊文字以外の文字 (※ただし先頭が数字から始まる名称は推奨しない。例「1ABC」) [サポート対象外の文字列] 特殊文字(半角／全角)「!＼＃\$％&()～¥ @[]:;<>.,?-*+=」等	
利用文字		動作環境によってはVistaで新たに利用可能になった文字が化けてしまいます。 OracleのキャラクタセットがShiftJISの時のみ「～」がShiftJISからUnicodeに変換できないため「？」になってしまいます。	
Oracle製汎用プロバイダ(64bit対応)について		Oracle製汎用プロバイダ(64bit対応)では、テーブル結合を行いますと、Long型のデータが途中で切れて表示されます。	
		Oracle製汎用プロバイダ(64bit対応)では、28桁を超える精度の数値の表示を行いますと、エラーとなる為、ROUND等の丸め関数を使用し28桁以内に丸める必要があります。	
専用プロバイダについて		専用プロバイダではLong型のデータが取得できません。	
		専用プロバイダでは、28桁を超える精度の数値の表示を行いますと、エラーとなる為、ROUND等の丸め関数を使用し28桁以内に丸める必要があります。	
SQLServerデータベース 関連			
データベース名、所有者名、オブジェクト名、について		[推奨文字列] アルファベット A～Z、アンダーバー _、数字 0～9、特殊文字以外の文字 (※ただし先頭が数字から始まる名称は推奨しない。例「1ABC」) [サポート対象外の文字列] 特殊文字(半角／全角)「!＼＃\$％&()～¥ @[]:;<>.,?-*+=」等	
軽技Web管理DB		データベースの設定でオブジェクト名を大文字／小文字判別する環境では動作しません。 SQL Serverの場合、データベースの照合順序は「JAPANESE_CI_AS」で作成する必要があります。	
シノニムについて		SYNONYMオブジェクトはテーブル一覧に表示されません。	
Nプレフィクスについて		Unicode 対応のデータ型(nchar、nvarchar、ntext)において、Nプレフィクス有で登録されたデータは正常に表示・取得ができません。 (検索表示された対象データは文字化けします) ※詳細は別紙「SQLServerでのNプレフィクスについて」を参照下さい。	

タイトル	制限事項
PostgreSQLデータベース 関連	
データベース名、所有者名、オブジェクト名、について	[推奨文字列] アルファベット A～Z、アンダーバー _、数字 0～9、特殊文字以外の文字 (※ただし先頭が数字から始まる名称は推奨しない。例「1ABC」) [サポート対象外の文字列] 特殊文字(半角／全角)「!＼＃\$%&'()*~¥ @{}[];:<>.,?-+*/=」等 PostgreSQLでは、クロス集計実行方式で「DBサーバ方式」が利用できません。 また、上記制限により、ドリルダウン機能が利用できません。 データベース名、所有者名、スキーマ名、オブジェクト名は小文字で作成する必要が有ります。 別スキーマに同じテーブル名のテーブルが有ると、項目選択画面で両方のテーブルの項目が取得されます。
Redshiftデータベース 関連	
管理DBの作成	Redshift には管理DBの作成ができません。
ビューメンテナンス (ビュー条件作成、ビュー作成・更新・削除)	Redshiftでは、ビュー条件の作成、ビュー作成・更新・削除が出来ません。
関数一覧の取得	関数埋込サブウィンドウのタイプから選択できるのは翻訳された「よく使う関数」、「実行関数」の2つだけです。 また、「よく使う関数」にSUBSTR関数が表示されますが、検索対象DBがRedshiftの場合は利用できません。
クロス集計実行方式について	Redshiftでは、クロス集計実行方式で「DBサーバ方式」が利用できません。 また、上記制限により、ドリルダウン機能が利用できません。
手動実行停止	Redshiftでは、手動実行停止が出来ません。
管理者機能 関連	
システム設定	Oracle接続方式で「専用プロバイダ」を利用するには、「ODP.NET 4.x」をインストールする必要があります。
共通設定	ユーザ情報は最大 5項目 管理情報は最大 99項目
メール	SMTPサーバ経由で行います。
	SMTP認証はLOGIN認証しか使用できません。
軽技ユーザデータベース	テーブル絞込みは軽技から参照したときのみ有効となります。
ユーザーメンテナンス一括更新	DB設定は、置き換えのみとなります。データベース単位の追加や削除はできません。
ビューメンテナンス	動的ビューの条件に使用するキー項目に対して非表示設定はできません。
動的ビュー検索条件指定	動的ビュー条件に@INPUT、@SUBJYOKEN、@UNIONJYOKEN、@SUBVALUEを指定することはできません。
環境情報 (Config.txt)	データベースユーザの権限によって作成されない項目があります。
ログ管理	軽技Web管理DBのあるデータベース(Oracle,SQLServer,PostgreSQL)で容量制限が設定されている場合は、最大容量に到達しないように定期的にメンテナンスを行う必要があります。 (ログメンテナンス機能にて不要なログの削除が可能です。)
	ダウンロードミラーリング、圧縮処理の一時ファイルダウンロードミラーリングを指定している場合は、エラーや強制終了によりダウンロードミラーリング作成中ファイルや圧縮処理の一時ファイルが残る場合があります。 エクスプローラ等で削除を行って下さい。
	ポータル機能(お知らせ、ユーザー検索、アプリケーション機能)のログは取得しない仕様となっています。
	ファイル作成サービス、ユーザー連携オプション、管理DBオプションのログは各指定のフォルダ内にファイルで出力されます。サーバーの空き領域がなくならないよう、定期的にメンテナンスを行う必要があります。(Webサーバーのログファイルをエクスプローラ等で削除を行って下さい。)
一般ユーザー機能 関連	
テーブル結合	テーブル結合では、以下の演算子は利用できません。 ・含まない(NOT LIKE) ・何れか以外(NOT IN) ・範囲(BETWEEN)
	テーブル結合条件にINPUT関数は利用できません。
	保存条件作成後、結合方式(kwzConfig.xml - IsNestJoin)を変更すると、検索結果に差異が出る場合があります。 結合方式の変更後は条件を再作成するようにしてください。
	結合方式で下位互換方式(kwzConfig.xml - IsNestJoin = 2)を選択した場合、以下の制限があります。 ・演算子は等しい(=)固定となります。 ・完全外部結合は選択できません。
軽技Web公開	DHCP環境ではURL公開をした場合、IPアドレスによる認証は正常に行えません。
プレビュー設定	プレビュー後に他画面に遷移するとセッションが切断されてしまう場合があります。 (URL公開利用時)

タイトル	制限事項
一般ユーザー機能 関連	
関数	Oracleからの抽出条件で割り切れない数式の場合、検索結果が画面にエラー表示されます。 Round関数等で割り切れない数式に対して丸め込み処理が必要です。
INPUT関数	INPUT設定の候補値表示で選択方法を「リストから選択」を指定した場合は、比較値の各設定（次ページ、前ページ、比較値の自動実行の無効等）が利用できません。
	INPUT設定の候補値表示で候補タイプ「入力した値」の設定は最大10まで設定可能です。
	候補表示「する」、選択方法「リストから選択」の場合、表示可能な候補値は、「書式設定-その他-比較値の1ページ表示件数」の設定に依存します。その為、1,000件を超える候補値は表示できません。
	INPUT設定の候補値表示で「参照条件で指定した項目」を指定した場合、参照条件の並び順での候補表示はできません。
明細集計	縦集計キー:最大10項目設定可能。 集計項目:最大30項目設定可能。
クロス集計	縦集計キー:最大30項目設定可能。 横集計キー:最大30項目設定可能。 集計項目:最大30項目設定可能。
	最大集計行数/列数は「999,999,999」まで指定できますが、Webサーバへの負荷状況や利用状況等で適切な値を設定する必要があります。
	クロス集計実行方式の「WEBサーバ方式」と「DBサーバ方式」とで利用できる機能に違いがあります。 詳細は別紙を参照下さい。
	ドリルスルーした結果に適用される表示件数や書式設定等は、スルー前の条件の設定が適用されます。 ドリルスルーした結果のみの書式設定は出来ません。
	ドリルスルーは画面内出力と別ウィンドウ表示の場合のみ利用可能です。HTML転送、EXCEL転送、XML転送、印刷、EXCELテンプレート出力、グラフ実行、EXCELアドオンでは有効になりません。
	検索方法「ユニオン&クロス集計」及び「サマリー &ユニオン&クロス集計」でのドリルスルー結果を表示することはできません。ユニオンをご利用になる場合は、ユニオンまで行ったビューを作成し、そのビューに対して条件作成を行ってください。
	クロス集計実行方式が「DBサーバ方式」の場合、縦集計キーもしくは横集計キーに同一の項目を設定してのクロス集計は実行できません。
	検索対象DBがOracleでクロス集計実行方式が「DBサーバ方式」の場合、文字列型、数値型以外を縦キー・横キーに設定する際には項目を文字列型に型変換する必要があります。
	検索条件指定で「OR」結合子を設定していてドリルスルーをご利用になる場合、「OR」結合子を含んだ条件を「(「」)」で囲う必要があります。
	展開利用「する」場合、各集計キーの合計行を「表示しない」に設定していても、格納状態では合計が表示されます。
SQLダイレクト	更新SQLも発行できます。 発行させないよう制御するには、共通設定-制御文字設定にて、「UPDATE」「DELETE」等の単語を登録してください。
	動的ビューは有効になりません。
Excelアドオン	ワークシート名に使用できない文字がある場合は、自動的に使用可能な文字列に変更されます。タイトルや項目名は、1～30文字以内で指定してください。 ※特殊文字(: ¥ / ? * [] ')等は使用できません。
	INPUT設定で候補値や候補値切替、実行ID等の機能は使用できません。
	設定内容(ヘッダーやフッター、背景色、最大転送件数等)は、検索条件の書式設定や転送設定の設定と共有になります。
	EXCELアドオンファイル「kwzExcel.xlam」はダウンロード時に接続情報の書き込みを行う事が出来ません。 以下のいずれかの方法でご対応をお願いいたします。 <方法1> ダウンロードの度に、利用者にダウンロードしたEXCELアドオンファイルから、軽技Webの接続設定を入力して頂く。 <方法2> 運用開始前に、軽技Webサーバ上にある「kwzExcel.xlam」ファイルの軽技Webサーバの接続情報を設定して頂く。 こうすることにより、利用者がダウンロードした後、接続情報を設定する必要がなくなります。
候補値絞り込み	候補値絞り込み設定の設定可能な条件数は10個までです。
	候補値絞り込み設定で設定した条件は、全て「AND」結合子で結合します。
	候補値絞り込みを設定している場合、設定元のINPUT設定の以下項目が無効になります。 ・初期値（選択方法が「リストから選択」のみ） ・候補値切替 ・実行ID値固定 ・実行ID値非表示 ・候補リスト
	候補値絞り込み設定で「候補値の絞り込みと検索実行結果」を設定している場合、URL公開実行でINPUT実行画面を省略することができません。
	SQLダイレクト実行では、候補値絞り込み設定を行う事は出来ません。
	候補値絞り込みを設定したINPUT設定の演算子が「範囲(BETWEEN)」の場合、開始値、もしくは終了値どちらかの候補値絞り込み設定のみ有効になります。 <優先順位> 開始値 > 終了値

タイトル	制限事項
一般ユーザー機能 関連	
候補値絞り込み	検索条件指定画面で行コピーを行った場合、候補値絞り込み設定はコピーされません。
	候補値絞り込み設定で選択方法を「リストから選択」にした場合、上位から順に選択しないと最終的な値が取得できません。 途中の絞り込みを飛ばしたい場合は、「サブ画面から選択」をご利用ください。
	候補値絞り込み設定を行っている場合、比較値取込機能は利用できません。「取込」ボタンが非表示となります。
	候補値絞り込み設定を行っている場合、取得する候補値は必ず「重複省く」になります。「書式設定-その他-比較値の実行タイプ初期値」は有効になりません。
サブクエリー	選択可能なサブクエリーは、作成している条件と同じ「軽技ユーザーデータベース」で作成されている必要があります。
	「その他データベース」ではサブクエリーは利用できません。
	ビュー用の保存条件はサブクエリーとして使用することは出来ません。
	サブクエリーに指定できる保存条件には、自身が所有しているものか、軽技公開で実行権限以上を付与する必要があります。
	サブクエリーとして実行される条件に「並び替え」設定がされていた場合、設定は無視されます。
	指定したサブクエリー検索条件にユニオン検索条件が指定されている検索条件は設定できません。
	サブクエリーを設定して以下機能を利用する場合は、関連する全ての検索条件に同様の権限設定が必要です。 ・公開設定 ・テーブル転送制限
	検索するテーブルとしてサブクエリーを選択した場合、項目選択画面で項目の型が表示されません。
	データベースの制限により、エイリアス名を設定した場合、入力文字数により検索実行エラーになる可能性があります。 【データベースの制限】 Oracle ： 30 Byteまで SQLServer ： 128 文字(全角半角区別なく)まで PostgreSQL ： 63 Byteまで(pg_config_manual.h内のNAMEDATALENの値を変更することで上限を上げることが出来ます。)
	SQLダイレクト実行する保存条件をテーブル選択でサブクエリーとして指定した場合、実行エラーとなります。
	エイリアス名に「”(ダブルクォーテーション)」は設定できません。
	使用する項目としてサブクエリーを選択した場合、サブクエリーに対して「関数埋込」を設定する事は出来ません。
	同じ保存条件をサブクエリーとして別の場所で指定することは出来ません。 (例えば、テーブル選択画面でサブクエリーとして選択した保存条件は、項目選択で指定出来ません。)
	サブクエリーにINPUT関数を設定した場合、メイン条件のINPUT関数の候補表示を使用することは出来ません。
	サブクエリーを参照している項目では項目選択画面の「値の取得」ボタンで値を参照することが出来ません。
	テーブル選択に指定するサブクエリーにSUBVALUE関数が設定され、サブクエリー参照設定画面で別階層の項目を設定すると実行エラーとなります。
	項目選択で関数埋め込みを使用したり、サマリー検索をする条件をサブクエリーに設定した場合、項目設定でエイリアス名を設定する必要があります。
	サブクエリー側のINPUT設定で候補値絞り込みを設定していた場合、有効になりません。
	メインクエリーとサブクエリーとでINPUTVALUE関数を利用した値の引き渡しは出来ません。 但し、各クエリー内でのINPUTVALUE関数は利用可能です。
ユニオン	ユニオン指定した検索条件は、所有者が自ユーザー、または利用する権限が付与されている必要があります。
	ユニオン指定する検索条件は、作成している条件と同じ「軽技ユーザーデータベース」で作成されている必要があります。
	「その他データベース」ではユニオン指定で検索条件を設定することは出来ません。
	ビュー用の保存条件はユニオン指定で使用することは出来ません。
	ユニオン項目には同じデータ型、項目数が設定されている必要があります。
	ユニオン数は最大20まで設定可能です。
	ユニオン後の検索結果データに対して、テーブル結合やサマリー指定、検索条件等を設定できません。検索条件(メイン側)のみ有効になります。
	ユニオン検索条件を指定して以下機能を利用する場合は、関連する全ての検索条件に同様の権限設定が必要です。 ・公開設定 ・テーブル転送制限
	ユニオン指定した検索条件においてユニオンした結果に対する条件を指定することはできません。
Excel転送	xls形式ではありません。(HTML形式)
	Excel形式(xls)で転送できる項目数(列数)は最大255です。
	Excel形式(xls,xlsx)で転送した場合、エラーが発生したり書式が保持されない可能性があります。
	Ecel形式(xls,xlsx)で転送した場合、書式設定(ヘッダーやフッター、背景色等)は、有効になりません。
	クロス集計の検索結果をExcel形式(xls)で転送した場合、1行目に自動的にクロス集計用の項目名が設定されます。

タイトル	制限事項
一般ユーザー機能 関連 Excel転送	xlsx形式ではシート名に条件タイトルが反映されません。
	Office2013の Strict Open XMLスプレッドシート(拡張子 - .xlsx)は利用できません。
ファイル作成登録	スケジュールの「週次」で「2週毎」と設定した場合、日曜始まりカレンダーをベースに週送りを行います。
	※詳細は別紙「ファイル作成登録のスケジュールについて」を参照下さい。
	ファイル作成登録(CSV作成登録、EXCELテンプレート作成登録、EXCELテンプレート拡張作成登録)はURL公開からの実行は出来ません。
ファイル作成サービス	ファイル作成サービスからファイル作成する先に同一ファイル名のファイルが存在した場合、ファイルは上書きされます。
	サブクエリーにINPUT設定をした条件でファイル作成登録した場合、異常終了となります。
	SQLダイレクトでINPUT設定をした条件でファイル作成登録した場合、異常終了となります。
	ファイル格納先にアクセス権が無い場合、異常終了となります。
EXCELテンプレート出力	Office2013の Strict Open XMLスプレッドシート(拡張子 - .xlsx)は利用できません。
	「INPUT入力値出力設定」はINPUT関数のみ利用可能です。INPUTVALUE関数に対しては設定できません。
	「INPUT入力値出力設定」はサブクエリー側のINPUT関数は設定できません。
	「INPUT入力値出力設定」はSQLダイレクトのINPUT関数は設定できません。
	SQLダイレクト実行の結果をEXCELテンプレート出力する場合、出力タイプは「一覧」のみ利用可能です。
	Microsoft Office Excel の制限により、1セルに書き込める最大文字数は32,767文字までです。 それ以上の文字数が書き込まれていた場合、以下のような警告が表示されます。 <警告内容> 【ファイル名】には読み取れない内容が含まれています。このブックの内容を回復しますか？ ブックの発行元が信頼できる場合は、[はい]をクリックしてください。
	テンプレートのEXCELに印刷範囲を行/列可変で設定している場合、EXCELテンプレート出力で以下条件を満たしているとエラーとなります。 <条件> 出力タイプ: 単票、一覧、明細キー & 一覧 1シート表示件数制御: する 超過時シートコピーする : チェック有り
EXCELテンプレート拡張出力	EXCELテンプレート拡張出力では、以下設定値が有効になりません。 ・件数カウント ・検索中表示 ・転送設定-ファイル名
ピボット転送	項目設定-各書式設定、及び書式設定の一部設定はピボット転送では反映されません。詳細は別紙の「【別紙】ピボット転送で有効になる設定について」をご参照ください。
	数値型以外の項目がクロス集計設定の集計項目に設定されていた場合、集計方法が「合計」「平均」「最大値」「最小値」の項目はビューアーで表示することができません。集計方法が「件数」の項目は表示されます。
	数値型以外の項目をビューアーの「メジャー」に設定した場合、「件数」の値が表示されます。
	共通設定-ダウンロードミラーリング「する」に設定されていた場合、ファイルを生成しないためミラーリングされません。また、圧縮などの設定も影響しません。
	「サマリー設定」がされていない条件をピボット転送で実行すると、NULLのデータも含めた集計結果を表示します。 NULLを含めない結果をピボット転送で表示するためには、「サマリー設定」を行ってからピボット転送を実行してください。
	ピボット転送では有効になっていた一部書式設定はEXCEL出力した結果に反映されません。詳細は別紙の「【別紙】ピボット転送からのEXCEL出力で有効になる設定について」をご参照ください。
	SQLダイレクト実行する条件は、ピボット転送できません。
	並び替え設定がされていない項目をキーにした場合、昇順としてソートされます。
タブレット機能	タブレット端末で、終了動作で「ウィンドウを閉じる」設定をした条件をURL公開実行で行った場合、終了ボタンをクリックしてもブラウザが閉じられません。
	タブレットでは出力形式が「画面内表示」、「別ウィンドウ表示」の条件のみ利用可能です。
	タブレットでは、以下機能は利用できません。 ・ドリルスルー ・実行結果枠の固定 ・CSV転送、HTML転送、EXCEL転送、XML転送、印刷、EXCELテンプレート出力、 CSV作成登録、EXCELテンプレート作成登録、ピボット転送 ・EXCELテンプレート拡張出力 ・グラフ実行
フォルダ公開	フォルダ公開時に指定できる検索条件は所有者が自ユーザーである必要があります。 ※公開中のフォルダに他ユーザーが所有する検索条件を追加した場合、フォルダ自体公開できなくなります。 フォルダ設定時に他ユーザーが所有する検索条件を含め、公開設定を行おうとすると保存時にエラーとなります。
	フォルダ公開のURL公開時の終了動作は、検索条件単位で設定できません。
ファイル作成登録公開	公開設定が可能なファイル作成登録情報は、そのファイル作成登録情報の元となった保存条件の所有者が自ユーザーである場合のみとなります。
	元の保存条件の公開設定をファイル作成登録情報に引き継ぐことはできません。

タイトル	制限事項
一般ユーザー機能 関連	
実行結果枠の固定	実行結果枠の固定は、画面内実行と別ウィンドウ表示の場合のみ利用可能です。HTML転送、EXCEL転送、XML転送、印刷、EXCELテンプレート出力、グラフ実行、EXCELアドオンでは有効になりません。
	画面内実行で表示した結果をコピーし、EXCEL等に張り付けた場合、画面内に表示された結果と一致しません。
	実行結果枠の固定は、タブレットからの実行では利用できません。
	実行結果枠の固定を有効にしている場合、「書式設定-全体-配置」の設定は無効となり、必ず左寄せで表示されます。
	固定すべき行/列が非表示に設定されている場合、枠の固定は有効になりません。 例:「書式設定-全体-項目見出し表示」を「しない」に設定し、「書式設定-その他-実行結果枠の固定」を「項目見出し」に設定した場合 等
	実行結果枠の固定を有効にしている場合、セル内のデータが境界線と重なってしまい見えなくなってしまう事があります。 以下設定を行う事で回避することが可能です。 ・書式設定-全体-セル内スペース:1以上 ・書式設定-全体-セル間スペース:1以上
INPUT候補別条件参照	SQLダイレクト実行する条件は、候補値として利用できません。
	INPUT関数が設定されている条件は、候補値として利用できません。
	項目選択が未設定、または項目設定で全項目表示に設定している条件は、候補値として利用できません。
	ビュー用の保存条件は候補値として利用できません。
	候補値として利用できる保存条件には、自身が所有しているものか、軽技公開で実行権限以上を付与する必要があります。
	候補値として実行される条件に「並び替え」設定がされていて、[重複省く]検索の場合、設定は無視されます。
INPUTまとめ入力	自身と同じ項目、または既に他の値と関連付けられている項目に対しては関連付けることはできません。
	候補値絞込設定の適用範囲が「候補値のみ絞り込み」の場合、関連付け設定を行う事は出来ません。
	候補値絞込設定項目の一部のみをまとめ入力設定することはできません。 全項目を関連付けするか、全項目を関連付けしないかのどちらかを設定してください。 尚、関連付け先はそれぞれの設定で問題ありません。
	保存条件の設定内容を変更した結果、INPUT項目の数が変更になった場合、INPUTまとめ入力設定はクリアされます。
ファイルのダウンロード	半角スペースを含んだファイル名は、ダウンロード時に異なる文字に置き換わって表示されます。 ※IEから半角スペースが含まれるファイル名をダウンロードした時に起こる現象になります。
	EXCEL転送、CSV転送において、“E”と数値が組み合わせられた値はEXCELの仕様により数値に変換されます。
保存条件	保存条件所有者以外のユーザーが対象の条件を新規保存する場合、保存元の条件の設定が引き継がれません。 ＜引継げない設定＞ ・公開設定（軽技公開、URL公開） ・転送設定（連携システム、最大転送件数、FCS最大転送件数、FCSスケジュール有効期間） ・書式設定（クロス集計の最大行数、最大列数） ※最大転送件数、FCS最大転送件数、FCSスケジュール有効期間、クロス集計の最大行数、最大列数は保存元の上限值より保存先の上限值が小さい場合引き継がれません。
	初期条件は日本語でのみ作成されます。
外部実行	外部実行からファイル作成する先に同一ファイル名のファイルが存在した場合、ファイルは上書きされます。
	ファイル格納先にアクセス権が無い場合、異常終了となります。
	検索条件を指定する場合は、予め@INPUT設定にて実行IDを付与する必要があります。
ユーザー連携オプション 関連	
AD/LDAP認証	LDAP認証の対象は、ActiveDirectoryとなります。 その他のディレクトリサービスは動作保証外となります。
ユーザー連携オプション	取り込むファイルのファイル名、保存先は変更することが出来ません。
	「kwzweb」、「kwzweb6」、「kwzweb5」、「default」ユーザーの更新、削除は出来ません。
管理DBオプション 関連	
エクスポート&インポート	エクスポートした軽技Webとインポートする軽技Webのバージョン、管理DBオプションのバージョンは、同一バージョンである必要があります。
	ビュー条件の移行は出来ますが、ビュー自体の移行は出来ません。
	インポート先に存在しないユーザーが所有する条件や、存在しない軽技ユーザーデータベースで接続されている条件は、インポートできません。 所有者、接続情報の変更を行ってからインポートを実施してください。
バックアップ&リストア-共通	OracleのバックアップをSQLServer、PostgreSQLにリストアすることは出来ません。 また、SQLServerのバックアップをOracle、PostgreSQLにリストアすることは出来ません。 および、PostgreSQLのバックアップをOracle、SQLServerにリストアすることは出来ません。
バックアップ&リストア-Oracle	OracleClientとOracleDatabaseのバージョンは同じバージョンにする必要があります。
	バックアップ時と違うスキーマ名にはリストアすることが出来ません。
バックアップ&リストア-SQLServer	差分バックアップ、差分バックアップのリストアには対応していません。
	バックアップファイルにパスワードを付与することは出来ません。

タイトル	制限事項
管理DBオプション 関連	
バックアップ & リストア-SQLServer	バックアップ時と違うデータベース名、スキーマ名にはリストアすることが出来ません。
バックアップ & リストア-PostgreSQL	既に存在しているスキーマに対してリストアすることが出来ません。
多言語オプション 関連	
多言語機能を利用する場合の 管理DBの制限事項について	・管理DBがSQLServerの場合、多言語オプションは利用できません。 ・多言語オプションを利用する場合は、管理DBの文字コードをUTF-8に設定する必要があります。
Oracleでの多言語オプションの利用	OracleDatabaseのCharacterSetと、OracleClientのCharacterSetは合わせる必要があります。 ※詳細は別紙「多言語オプション利用時の文字コードについて」を参照下さい。
PostgreSQLでの多言語オプションの利用	PostgreSQLのエンコードと、PsqlODBCのエンコードは合わせる必要があります。 ※詳細は別紙「多言語オプション利用時の文字コードについて」を参照下さい。
関数一覧	中国語、英語の場合、タイプから選択できるのは翻訳された「よく使う関数」、「実行関数」の2つだけです。 また、一覧の「用途」は表示されません。
ピボット転送について	日本語・英語・中国語には切り替えられますが、他の言語には拡張できません。
インストーラについて	英語・中国語に切り替えられません。日本語表示のみとなります。
管理DBビューについて	初期セットアップ時に作られる管理DB用のビューは日本語でのビューのみとなります。
中国語に関して	中国語は簡体字で表示されます。
	クライアントに中国語のランゲージパックをインストールする必要があります。
エンコードに関して	多言語利用時は書式設定の「エンコードタイプ」を「UTF」にする必要があります。
Excelアドオンに関して	EXCELアドオンは英語・中国語に切り替えられません。日本語表示のみとなります。
マニュアルに関して	マニュアルは日本語版のみとなっております。
ログファイルに関して	管理DBオプション、ユーザー連携オプション、ファイル作成サービスで出力されるログファイルはすべて日本語表示のみとなります。
グラフオプション 関連	
グラフ機能に関して	グラフ機能ではアラート機能は利用できません。
	項目設定-各書式設定、及び書式設定の一部設定はグラフ実行では反映されません。 詳細は別紙の「【別紙】グラフ実行で有効になる設定について」をご参照ください。
	グラフ機能はクロス集計設定を行った条件でしか実行できません。
	SQLダイレクト実行する条件は、グラフ実行できません。
	グラフ機能を使用する際の推奨ブラウザはChromeとなります。 ※IEの場合、処理速度が低下します。
その他	
各種資料に関して	ヘルプ及びマニュアルの内容はIEでの動作を記載しています。

■【別紙】ファイル作成登録のスケジュールについて■

【ケース】

No	登録日(★)	スケジュール(○)	有効期間
1	4/3	週次 2週毎 月/水/金	4/2 ~ 4/30

4月

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3 ★	4 ○	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14 ○	15	16 ○	17	18 ○	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28 ○	29	30 ○			

一回目実行日 4/4
 二回目実行日 4/14 月曜は1回も実行していないが、翌週の実行になる。
 三回目実行日 4/16 水曜は1回も実行していないが、翌週の実行になる。

Webサーバ方式(旧方式)とDBサーバ方式(新方式)の違いについて

Webサーバ方式/DBサーバ方式の利用可否については、
「DB種別によるクロス集計実行方式の利用可否」を参照

		Webサーバ方式	DBサーバ方式	備考
検索方法	明細/クロス	○	○	
	サマリ&明細/クロス	○	○	
	ユニオン&明細クロス	○	○	
クロス設定	展開表示設定機能(ドリルダウン・アップ)	×	○	
	キー・集計項目の入れ替え	○	○	
	縦集計キーの数	30	30	
	横集計キーの数	30	30	
	集計項目の数	30	30	
	項目の合計名表示	○	○	
	項目の合計表示	○	○	
	日付型で合計、平均、最大値、最小値	△	×	【Webサーバ方式】 集計結果を「???」として表示 【DBサーバ方式】 条件実行不可(実行エラー)
	日付型で件数	○	○	
	文字型で合計、平均、最大値、最小値	△	×	【Webサーバ方式】 集計結果を「???」として表示 【DBサーバ方式】 条件実行不可(実行エラー)
	文字型で件数	○	○	
	数値型で合計、平均、最大値、最小値	○	○	※小数点表記の差異については、 「Oracleプロバイダによる小数点以下の出力差異」を参照
	数値型で件数	○	○	
	バイナリ型で合計、平均、最大値、最小値	△	×	【Webサーバ方式】 集計結果を「???」として表示 【DBサーバ方式】 条件実行不可
	バイナリ型で件数	○	○	
	再集計	○	○	
	縦・横総計を表示	○	○	
	空行・列を表示	○	○	
	最大集計行・列の上限値	999999999	999999999	
項目設定	クロス集計項目の表示/非表示	△	×	【Webサーバ方式】 設定によっては、エラーが発生する 可能性があります。 【DBサーバ方式】 設定不可
検索実行	集計項目選択機能	×	○	
	展開表示機能(ドリルダウン・アップ)	×	○	

DB種別によるクロス集計実行方式の利用可否

		Webサーバ方式	DBサーバ方式
Oracle	11gR2	利用可能	利用可能
	12cR1	利用可能	利用可能
	12cR2	利用可能	利用可能
SQLServer	2008	利用可能	利用可能
	2012	利用可能	利用可能
	2014	利用可能	利用可能
	2016	利用可能	利用可能
PostgreSQL	9.5	利用可能	利用不可
	9.6	利用可能	利用不可
Amazon Redshift	1.0.1282	利用可能	利用不可

Oracleプロバイダの違いによる小数点以下の出力差異

赤字: 以前のバージョンと出力の差異がある

	Oracle製汎用プロバイダ(64bit対応)	専用プロバイダ
Webサーバ方式	小数点以下の表示可能最大値で値が丸められる (整数・小数部分(点含む)合わせて30桁まで) 例: 39.5555555555555555555555555556	丸めの桁が少ない (整数・小数部分(点含む)合わせて16桁まで) 例: 39.55555555555556
DBサーバ方式	小数点以下の表示可能最大値で値が丸められる (整数・小数部分(点含む)合わせて29桁まで) 例: 39.55555555555555555555555556	エラーとなり、検索実行が不可 (オーバーフロー)

ピボット転送で有効になる設定について

【凡例】○:有効、×:無効、△:一部制限有り						
クロス集計の場合	経技Web設定画面		項目	ピボット転送	備考	
	項目設定	使用する項目(通常項目)		△	クロス集計設定画面に選択された項目が反映される	
		使用する項目(サブクエリー)		×	クロス集計では設定できない	
		使用する項目(関数埋め込み)		△	クロス集計設定画面に選択された項目が反映される	
	明細/クロス集計設定	縦集計キー	項目	○		
			合計名	×	常に「合計」と表示される	
			合計行表示	×	常に合計行が表示される	
			縦総計表示	×	常に総計は表示されない	
			空列を表示	×	常に空列は表示されない	
		横集計キー	項目	○		
			合計名	×	常に「合計」と表示される	
			合計行表示	×	常に合計行が表示される	
			横総計表示	×	常に総計は表示されない	
			空列を表示	×	常に空列は表示されない	
		集計項目	項目	○		
			集計方法	△	数値型項目:全集計方法が利用可能 文字型項目:「件数」のみ利用可能 日付型項目:「件数」のみ利用可能	
			再集計	×	全て反映されない	
					数値型項目:「合計」として集計結果を表示 文字型項目:「件数」として集計結果を表示 日付型項目:「件数」として集計結果を表示	
クロス集計以外	項目設定	使用する項目(通常項目)	○			
		使用する項目(サブクエリー)	○			
		使用する項目(関数埋め込み)	○			
共通	項目設定	全体	使用する項目	○		
			エイリアス名	○	表示名が設定されていない場合に反映される	
			表示名	○		
			表示	○		
			項目単位の設定	△	一部書式設定のみ反映される	
		タイトル	自動改行	×		
			背景色	×		
			文字色	×		
			文字サイズ	×		
			配置	×	常に左寄せとなる	
			タグ有効	×	常にタグ無効となる	
			明細行	詳細設定	○	
		色		×	常に「背景色」「文字色」のみが反映される	
		背景色		○		
		文字色		○		
		背景色2		×		
		文字色2		×		
		文字サイズ		○		
		配置		○		
		値の後方空白		○		
		NULL値の表示		×	「(NULL)」と表示されない	
		タグ有効		×	常にタグ無効となる	
		項目書式		×	常に全体の書式設定側の設定が反映される	
		集計行の背景色		○		
		集計行の文字色		○		
		集計行の装飾		○		
		書式設定	全体	ヘッダー	○	
				フッター	○	
				配置	×	常にビューアーの右側が表示領域となる
	項目見出し表示			×	常に表示される	
	行番号(No)表示			×	常に表示されない	
	セル内のスペース			×		
	セル間のスペース			×		
	境界線の色			×		
	境界線の幅			×		
	境界線のスタイル			×	常に「Solid(実線)」となる	
	タイトル			自動改行	×	
				背景色	×	
				文字色	×	
			文字サイズ	×		
			配置	×	常に左寄せとなる	
	明細行		タグ有効	×	常にタグ無効となる	
			詳細設定	○		
			色	×	常に「背景色」「文字色」のみが反映される	
		背景色	○			
		文字色	○			
		背景色2	×			
文字色2		×				
文字サイズ		○				
配置		○				
値の後方空白		○				
NULL値の表示	×	「(NULL)」と表示されない				
タグ有効	×	常にタグ無効となる				
文字書式	×	項目見出しへは反映されない				
数値書式	△	項目見出しへは反映されない				
日付書式	×	項目見出しへは反映されない				
集計行の背景色	○					
集計行の文字色	○					
集計行の装飾	○					

ピボット転送からのEXCEL出力で有効になる設定について

【凡例】○:有効、×:無効、△:一部制限有り -:ピボット転送で有効にならない			
軽技Web設定画面	項目		EXCEL出力
項目設定	タイトル	自動改行	-
		背景色	-
		文字色	-
		文字サイズ	-
		配置	-
		タグ有効	-
		詳細設定	○
	明細行	色	-
		背景色	○
		文字色	○
		背景色2	-
		文字色2	-
		文字サイズ	○
		配置	○
		値の後方空白	○
		NULL値の表示	-
		タグ有効	-
		項目書式	-
		集計行の背景色	○
		集計行の文字色	○
		集計行の装飾	○
書式設定	全体	ヘッダー	○
		フッター	○
		配置	-
		項目見出し表示	-
		行番号(No)表示	-
		セル内のスペース	-
		セル間のスペース	-
		境界線の色	-
		境界線の幅	-
		境界線のスタイル	-
	タイトル	自動改行	-
		背景色	-
		文字色	-
		文字サイズ	-
		配置	-
		タグ有効	-
		詳細設定	○
	明細行	色	-
		背景色	○
		文字色	○
		背景色2	-
		文字色2	-
		文字サイズ	○
		配置	○
		値の後方空白	○
		NULL値の表示	-
		タグ有効	-
		文字書式	×
		数値書式	△
		日付書式	×
		集計行の背景色	○
		集計行の文字色	○
		集計行の装飾	○
		ヘッダー	○
		フッター	○
		配置	-
		項目見出し表示	-
		行番号(No)表示	-
		セル内のスペース	-
		セル間のスペース	-
		境界線の色	-
		境界線の幅	-
		境界線のスタイル	-
		自動改行	-
		背景色	-
		文字色	-
		文字サイズ	-
		配置	-
		タグ有効	-
		詳細設定	○
		色	-
		背景色	○
		文字色	○
		背景色2	-
		文字色2	-
		文字サイズ	○
		配置	○
		値の後方空白	○
		NULL値の表示	-
		タグ有効	-
		文字書式	×
		数値書式	△
		日付書式	×
		集計行の背景色	○
		集計行の文字色	○
		集計行の装飾	○

■【別紙】多言語オプション利用時の文字コードについて■

【Oracle】

Oracle Database	Oracle Client	
	JA16SJIS	AL32UTF8
SJIS	×	○
UTF8	○	×

【PostgreSQL】

PostgreSQL	Psql ODBC	
	ANSI	Unicode
EUC-JP	○	×
UTF8	×	○

グラフ実行で有効になる設定について

【凡例】○:有効、×:無効、△:一部制限有り					
クロス集計の場合	経費Web設定画面		項目	グラフ実行	備考
	項目設定	使用する項目(通常項目)		△	クロス集計設定画面に選択された項目が反映される
		使用する項目(サブクエリー)		×	クロス集計では設定できない
		使用する項目(関数埋め込み)		△	クロス集計設定画面に選択された項目が反映される
	明細/クロス集計設定	縦集計キー	項目	○	
			合計名	×	常に「合計」と表示される
			合計行表示	×	常に合計行が表示される
			縦総計表示	×	常に総計は表示されない
			空列を表示	×	常に空列は表示される
		横集計キー	項目	○	
			合計名	×	常に「合計」と表示される
			合計行表示	×	常に合計行が表示される
			横総計表示	×	常に総計は表示されない
			空列を表示	×	常に空列は表示される
		集計項目	項目	○	
			集計方法	△	数値型項目:全集計方法が利用可能 文字型項目:「件数」のみ利用可能 日付型項目:「件数」のみ利用可能
			再集計	×	全て反映されない
クロス集計以外	項目設定	使用する項目(通常項目)	×	クロス集計以外ではグラフ実行は使用できません	
		使用する項目(サブクエリー)			
		使用する項目(関数埋め込み)			
共通	項目設定	全体	使用する項目	○	
			エイリアス名	○	表示名が設定されていない場合に反映される
			表示名	○	
			表示	○	
			項目単位の設定	×	
		タイトル	自動改行	×	
			背景色	×	
			文字色	×	
			文字サイズ	×	表の文字サイズについては転送設定にて設定可能
			配置	×	常に中央寄せとなる
			タグ有効	×	常にタグ無効となる
		明細行	詳細設定	×	
			色	×	
			背景色	×	
			文字色	×	
			背景色2	×	
			文字色2	×	
			文字サイズ	×	表の文字サイズについては転送設定にて設定可能
			配置	×	常に左寄せとなる
			値の後方空白	×	
			NULL値の表示	×	「(NULL)」と表示されない
			タグ有効	×	常にタグ無効となる
			DB2 DECIMAL型自動丸め	×	
			項目書式	×	
			集計行の背景色	×	
			集計行の文字色	×	
			集計行の装飾	×	
			アラート検知	×	
	書式設定	全体	ヘッダー	×	
			フッター	×	
			配置	×	常に右側が表示領域となる
			項目見出し表示	×	常に表示される
			行番号(No)表示	×	常に表示されない
			セル内のスペース	×	
			セル間のスペース	×	
			境界線の色	×	
			境界線の幅	×	
			境界線のスタイル	×	常に「Solid(実線)」となる
		タイトル	自動改行	×	
			背景色	×	
			文字色	×	
			文字サイズ	×	表の文字サイズについては転送設定にて設定可能
		明細行	配置	×	常に左寄せとなる
			タグ有効	×	常にタグ無効となる
			詳細設定	×	
			色	×	
			背景色	×	
文字色			×		
背景色2			×		
文字色2			×		
文字サイズ			×	表の文字サイズについては転送設定にて設定可能	
配置			×		
値の後方空白			×		
NULL値の表示			×	「(NULL)」と表示されない	
タグ有効			×	常にタグ無効となる	
文字書式			×		
数値書式			×		
日付書式	×				
集計行の背景色	×				
集計行の文字色	×				
集計行の装飾	×				

【別紙】SQLServerでのNプレフィクスについて

Unicode 対応のデータ型(nchar、nvarchar、ntext)において、Nプレフィクス有で登録されたデータは正常に表示・取得できません。

No	カラム名	データ型	桁数	備考
1	COL1	varchar2	100	Nプレフィクスなしでのインサート
2	COL2	varchar2	100	Nプレフィクスありでのインサート
3	COL3	nvarchar2	100	Nプレフィクスなしでのインサート
4	COL4	nvarchar2	100	Nプレフィクスありでのインサート

入力文字列： 森鷗外

テーブル名： test_tbl

インサート文： insert into test_tbl(COL1, COL2, COL3, COL4) values ('森鷗外', N'森鷗外', '森鷗外', N'森鷗外')

INSERTされた入力文字列を取得した場合、各DBでの検索実行結果

	Oracle	SQLServer	PostgreSQL
COL1	森鷗外	森?外	森鷗外
COL2	森鷗外	森?外	森鷗外
COL3	森鷗外	森?外	-
COL4	森鷗外	森鷗外	-

INSERTされた入力文字列をWHERE句に指定した場合、各DBでの検索実行結果

Nプレフィクス

あり： select * from where COL4 = N'森鷗外'

なし： select * from where COL4 = '森鷗外'

	Oracle		SQLServer		PostgreSQL	
	Nプレフィクスあり	Nプレフィクスなし	Nプレフィクスあり	Nプレフィクスなし	Nプレフィクスあり	Nプレフィクスなし
COL1	○	○	×	○	○	○
COL2	○	○	×	○	○	○
COL3	○	○	×	○	-	-
COL4	○	○	○	×	-	-

【別紙】既存操作が変更になる部分について

No	変更内容	新仕様	既存仕様
1	条件タイトル・説明の変更方法について	条件ウィザードの検索実行画面内にある、確認画面タブの「設定内容・エラー確認」にて「条件タイトル」項目を押下することによって条件タイトル・説明編集画面が表示されるようになりました。 (新規検索時は、新規保存ボタン押下時に表示されるため、	条件編集時に表示される条件情報の、条件タイトル横に表示されている「？」ボタンを押下することで条件タイトル・説明編集画面が表示されていました。

●これまでの変更方法

No: 11 選択データベース: 人事データ データベース種別: Oracle
タイトル: 顧客別売上実績クロス集計 選択テーブル: "月次売上実績" A 条件区分: 検索

新規作成 テーブル選択 テーブル結合 項目選択 明細/クロス 検索条件 並び替え 検索実行

検索方法・項目選択

検索方法: 明細/クロス集計

項目選択

使用可能な項目	選択	使用する項目
[NU004] A "年度"		===== END =====
[CH001] A "上下区分"		
[CH001] A "四半期区分"		
[NU006] A "年月"		
[CH002] A "支社コード"		
[CH005] A "職判コード"		
[VC004] A "顧客コード"		
[VC007] A "品番コード"		
[VC160] A "型式仕様"		
[NU011] A "SP金額"		
[NU011] A "差益"		
[NU009] A "数量"		
[NU003] B "表示順"		
[VC004] B "顧客コード"		
[VC010] B "集計顧客略称"		
[VC010] B "顧客略称"		
[VC040] B "社名"		
[VC005] B "販売地域"		

●Ver 7.0.2からの変更方法

新規作成 テーブル選択 テーブル結合 項目選択 明細/クロス 検索条件 並び替え 検索実行

確認・実行

確認画面 項目設定 書式設定 公開設定 転送設定 SQL設定

実行設定

1ページの表示件数	10
検索中表示	表示しない
件数カウント	件数カウントしない
出力形式	画面内表示

設定内容・エラー確認

条件タイトル	顧客別売上実績クロス集計
データベース接続設定	
テーブル選択	
結合条件	
項目選択	
明細/クロス集計	
検索条件	
並び替え	並び替え項目が自動設定されています。 明細/クロス集計の集計キーで自動的に並び替えます。
その他	

検索条件の情報設定

条件No	70
タイトル	2006年度顧客別月次売上実績
説明	2006年度の顧客別月別売上実績一覧 説明取込
所有者	軽技 一郎
作成日	2009/02/24 11:25:24
更新者	軽技 一郎
更新日	2009/02/24 17:48:45
最新利用日	2009/02/25 14:43:44
利用回数	91

設定